

ざしきわらしー郎太の修学旅行

柏葉幸子・作

岡本 順・絵 あかね書房

資^{もと}は家出をして、東京にいる^{たんしんふにん}单身赴任のお父さんの所へ行く^{もと}とちゅうだった。気づくと荷物にすわりこんだ資^{もと}のとなり^{もと}に泣いている男の子がいる。ざしきわらしの一郎太だった。

資^{もと}を「あにさん」と呼び二人旅が始まった。ところが、ふしぎな力をもつ一郎太は、ゆうかいされてしまう。

みんながいこつ

川北亮司・文 おぼ まこと・画 童心社

「ガキサブ」とよばれている^{しらがあたま}白髪頭のサブちゃんは、肥料^{ひりょう}工場の^{ほね}そうこの番人。そうこの中には、牛や馬の骨が山とつまれている。ぼくとひろしとサブちゃんは、その山に登ったり、頭の穴になわを通したり、ドラキュラ狩り^{いっしょ}をして遊んだ。いつもおどけて一緒に遊んでくれたサブちゃんだったが、かいぞくになって体当たり^{いっしょ}をしたら草の上^{いっしょ}にたおれた。目には、なみだが光っていた。

くものす山のなぞ

小山 勇／作 高橋 透／絵 文研出版

^{どき}土器を探しに「くものす山」に登った。

くものす山には、戦争中^{てき}敵がせめてきたときにそなえ、

^{ほうだい}砲台があり今でも^{ふはっだん}不発弾が埋まっているらしい。

草やぶにはいって行くと、けいたが^{がけ}崖からすべり落ち、洞^{どう}くつの近くで見つけたものは人間の骨^{ほね}。骨のひみつを調査するのだが……

